

第19号議案

「「邂逅 八雲から湊石へ」語りと音楽で綴る」の後援名義使用承認について

上記の議案を提出する。

平成29年5月11日

提 出 者 文京区教育委員会

教育長 南 新平

別記様式第1号 (第6条関係)

文京区教育委員会 共催・後援 名義使用申請書

29年 4月5日

文京区教育委員会 殿

申請者 (申請団体) 森の音舎

住所 (所在地) 東京都小平市小川町1-755-2-601

代表者名 もりたんななこ  
森反ナナ子

代表者連絡先 (事務担当者) 東京都小平市小川町1-755-2-601

下記事業を実施するに当たり、文京区教育委員会 共催・後援名義を使用したく、申請します。

記

事業名	「邂逅 八雲から漱石へ」語りと音楽で綴る	
実施期間	2017年 7月 7日 (金) から 2017年 7月 8日 (土) まで (2日間)	
実施場所	求道会館 文京区本郷6-20-5	
事業内容	目的※	文京区にゆかりの深いふたりの作家の作品を通じ、音楽とともに100年前の東京の姿や暮らしにも想像力を広げていただくことが大切だと考える。また日頃聴く機会が少ない日本の伝統楽器三味線、中国の二胡の音色に触れる機会を設け、その豊かな表現力を若いうちから知っていただきたいと願う。物語と音楽で小学生からシニア世代までお楽しみいただける構成。
	内容	小泉八雲と夏目漱石作品を語りと音楽 (邦楽洋楽) で表現する。
	対象者	小学生からシニア世代まで (参加予定人員300人)
	参加費	前売り3500円 (当日3800円) 学生2500円小中学生1000円 文京区小中学生は700円 (前売り) および各回ご招待枠を設ける
他団体の共催、後援等 (申請中、承認済の別)	助成：公益朝日新聞文化財団 (2017年度音楽部門)	
備考		
申請書類一式は、教育委員会会議資料として、HP等で公開いたします。 公開することに <u>同意する</u> ・ 同意しない		

※ 「目的」は、教育委員会が後援するに当たり、「区立幼・小・中の児童・生徒にとって、どのようなメリットがあるのか」という視点で記載してください。

# 事業予算書

事業名邂逅 八雲から漱石へ

団体名森の音舎

収 入	単位：円	支 出	単位：円
入場料	895000	会場費	247500
寄付金	50000	設営費	20000
助成 朝日新聞文化財団	100000	ピアノ使用料・調律料	40000
物販	10000	稽古場使用料	30000
自己負担金	89000	稽古場ピアノ使用料	15000
		出演料	410000
		作曲料	30000
		翻訳使用料	20000
		楽曲使用料	10000
		謝金①原稿料	30000
		謝金②受付ほか	45000
		制作費	50000
		印刷費	25000
		デザイン料	20000
		雑費	30000
		郵送料	21500
		保険料	10000
		記録写真	40000
		撮影	50000
計	1144000	計	1144000

年 月 日

(備 考)

事業の実施要綱等について

事業名「邂逅 八雲から漱石へ」語りと音楽で綴る

＜事業の企画意図・目的＞

生前深い縁を持ちながらも一度も出会うことのなかった二人の作家へのオマージュを込めて語りと音楽（邦楽・洋楽）で表現する。ことばと音との緊密なやりとりの妙を提示、また音楽がことばを開放し、よりお聴きくださる方の想像力の広がりをもたらすものと考え。日本の音、生活の音を意識し、西洋音楽が導入される以前の日本固有の音階や平均律ではない楽器による揺らぎや情感、心象風景の表現を邦楽で、後半のプログラムでは洋楽でお聴き比べいただきたい意図がある。

＜事業の内容＞

プログラム：7月7日 19時・8日 14時/18時共通

①小泉八雲「心」より 門付け 三味線・語り・歌 常磐津文重太夫

内容：盲目の女性が幼子に手をひかれ家々を門付けして歩く。その歌声に、三味線の見事な演奏に八雲は深く心を動かされこの作品を書いた。作品の中で歌われる「小栗判官（小栗さん）」を含む門付け歌の系譜をたどる試み。また「一民族の経験の総体よりもさらに大きな何ものかに……人類の生命のようにひろい、また善悪の知識のように古い何ものかにうったえることのできる力」を持つと描写される女性のうたに迫る歌唱を目指す。「」引用—小泉八雲「門付け」より

構成：神事～琵琶法師によって語られる浄瑠璃「三番叟」また「小栗判官」「八百屋お七」等作品中の情勢によって歌われた「警女歌」から、高橋竹山により近代の門付けの代名詞ともなった「津軽じょんがら節」へと演奏を展開していく。門付けは「Street Singer」と訳されるが近代まで日本各地で歌い継がれてきた「門付け歌」の魅力と三味線演奏を示す。また、洋楽が導入される以前、高い専門性を有するとともに庶民の生活に溶け込み、親しまれてきた三味線音楽が表現するものを存分に歌とともに感じていただきたい。

②小泉八雲「鳥取のふとん」 語り 新井純 ピアノ作曲岩間麻里

内容：ラフカディオ・ハーン「日本の面影」収録「日本海に沿って」より。鳥取の浜村に投宿したハーン夫妻が宿の女中によって語られた話。寄る辺ない貧しき幼い兄弟の物語。極限の状況下に置かれる中、兄弟の互いへの深いいたわりと愛情に充ちた小品。

構成：新井純の語りとともにピアノで、雪、風、心象風景（哀切、諦念、浄化）など情景を描いていく。

③小泉八雲「帰ってきた死者」 語り 新井純 二胡 澤渡なおこ

内容：「日本の面影」に収録。ハーンの紀行文である日本の面影は紀行文でありハーンの哲学的な論考や各地に伝わる伝承伝説を盛り込んだ作品集である。この作品は植木職人金十郎からの採話とされる。

亡くなったはずの女性が甦る理由が憎しみなどではなく愛情からであり、いたわしくも美しい掌編

構成：3部構成で①東北の戦に赴く男と許嫁の娘の束の間の安らぎの時を二胡で表現②待つ時間の心象表現③再開と二人の新しい生き生きとした生活、突然の別れをドラマティックに表現 二胡の多彩な奏法、効果音を楽しんでいただくねらいがある。

—休憩 15分—

④ 三味線と二胡による演奏—小泉八雲作品に題材をとるオリジナル作品

⑤ 「怪談」集より小泉八雲「子捨ての話」 語り 高橋和久 三味線常磐津文重太夫

夏目漱石 夢十夜「第三夜」 語り 新井純 ピアノ森反ナナ子

内容：漱石は千駄木時代に小泉八雲の訃報をうけ遺作となった怪談集を読み耽ったとされる。後年発表された「夢十夜」の中でも構成の類似が指摘される第三夜と子捨ての話が続けて上演し、水墨画のような八雲の世界とかたや、色が塗り重ねられていく油絵のようなイメージを持ち音で具現化していく。子捨ての話は三味線、第三夜はピアノ。

⑥ 夏目漱石 夢十夜「第六夜」 語り 高橋和久 ヴァイオリン安倍由美子

内容：「運慶が護国寺の山門に仁王を刻んでいるという評判だから、散歩ながら行ってみると～」という書き出しで始まるユーモラスな作品。運慶が明治の世まで生きていて仁王を一心に刻んでいる様子を群衆が遠巻きに見て下馬評をしていると一人の若者が自分にも彫れるはずだと思ひ立ち、という展開が滑稽さと不思議な印象をもたらす。ヴァイオリンで鑿と槌の動きを表現していく。

⑦ 夏目漱石 夢十夜「第九夜」 語り 新井純 ヴァイオリン安倍由美子

ピアノ森反ナナ子

内容：「夢の中で母から聞いた」と最終行にある点が他の作品と異なる。月のない晩に屋敷の勝手口から独り戦に赴きそのまま帰らないの夫のために祈る母子の姿をひとしきり描き、不意の結末をむかえる印象深い作品。音楽の情景描写と心象表現が聴きどころのひとつ。

⑧ 夏目漱石 夢十夜「第一夜」 語り 新井純 高橋和久 ピアノ森反ナナ子

ヴァイオリン安倍由美子 二胡澤渡なおこ

内容：「百年待っていてくれますか きっと会いにきますから」とことばを残し死んだ女を百年間墓のそばで待つ男のもとに百合の花がかぐわしく花開く。夢十夜の中でも最もよく知られ愛されるこの物語を初演時はピアノ、今回は弦楽器の共演する特別ヴァージョンでお届けする。

上演時間およそ 1 時間 40 分

休憩 15 分

日時：2017年7月7日金曜日 午後19時

7月7日土曜日 午後14時/18時 開場は30分前

場所：求道会館 文京区本郷6-20-5

<公演にあたって>

森の音舎では、ふたりの作家に所縁の深い文京区で2016～2017年と連続公演をしてみたいりました。小泉八雲没後112年、夏目漱石没後100年を経てなおふたりの作品は同時代性を持ち、愛され、読み継がれております。変容していく世の中に、今なおというより今後さらに貴重なメッセージ性を帯びてくるのではないかと思います。甦る土地の記憶とともに作品もまたいつその輝きを放つものと考えます。文京区民の皆様にご覧をさせていただき親しんでいただけましたらさいわいです。

## 森の音舎 会則

第1条：この団体は 森の音舎とする。

第2条：この団体は、音楽・演劇・美術のコラボレーションによる新たな表現形態のコンサートを企画制作、創造する意図のもとに結集したアーティストで構成、制作・監査・専任の構成員をおく。

第3条：この団体は、代表森反ナナ子の自宅 東京都小平市小川町 1-755-2-601を連絡先（事務所）の拠点とする。

### 第4条：会員

- ・代表 森反ナナ子（企画・制作・広報・会計・ピアニスト）
- ・副代表 倉科園子（企画・制作・会計）
- ・高間蘭子（監査）
- ・菊地暁子 （制作補佐・記録写真）
- ・澤渡なおこ （宣伝美術・二胡奏者）
- ・石井ひとみ （広報・俳優・歌手）
- ・安倍由美子 （制作補佐・ヴァイオリニスト）
- ・室麻衣子 （舞台美術・アーティスト）
- ・岩間麻里 （作曲編曲・ピアニスト）
- ・平野真理子 （ソプラノ歌手・制作補佐）

2016年4月現在以上10名で構成される。

また、プログラム構成等アドヴァイザーを置くものとする。

- ・新井純 （カウンセラー・アドヴァイザー・俳優・歌手）

第5条：この会の会計処理および管理方法は、役員会（月1回の報告会）で定める。

第6条：この会は政治活動および宗教活動を目的としない。

第7条：年会費については役員会で定める。

第8条：退会は報告会に申し出をし、任意のものとする。

第9条：本会の設立年月日は2014年9月23日とする。

第10条：この会則に定めのない事項およびこの会則の実施に必要な細則は役員会で定める。

第11条：この会則は2014年9月より施行する。

第12条：「賢治～ブレヒトをめぐる旅」実行委員会 から 森の音舎に団体名を変更する。

森の音舎三役名簿

(2017年4月現在)

代表 森反ナナ子 (企画制作 プロデュース)

副代表 御法川園子(企画制作 プロデュース)

副代表 高間蘭子 (会計)

会計補佐 木内美樹

会計補佐 菊地暁子

監査 石井ひとみ